

# トビウオ通信 (H27 第 3 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 27 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 27 年 3 月に開催された東シナ海～日本海南西海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成 27 年度上半期（4～9 月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

### 山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 27 年度上半期(4～9 月)〕

マアジ:前年並みか前年を上回る

マサバ:前年並みか前年を上回る

カタクチイワシ:前年並みか前年を下回る

ウルメイワシ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年並みか前年を上回る

※ 本文中で「上半期」は 4～9 月、「下半期」は 10～翌年 3 月、「平年」は過去 5 カ年の平均値をいいます。

### マアジは前年並みか前年を上回る

#### 東シナ海～日本海南西海域の漁況

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成 20 年以降増加傾向にありますが、平成 24 年に一度 2 万 9 千トンまで減少し、平成 26 年は 2 万 6 千トンとほぼ横ばいでした。

一方、鹿児島県から山口県の沿岸域における平成 26 年 11 月～27 年 1 月の漁獲状況は、全体としては前年・平年並みとなりました。沿岸域の漁況は、直近までの漁獲状況から今後は前年・平年並みになると予測されています。

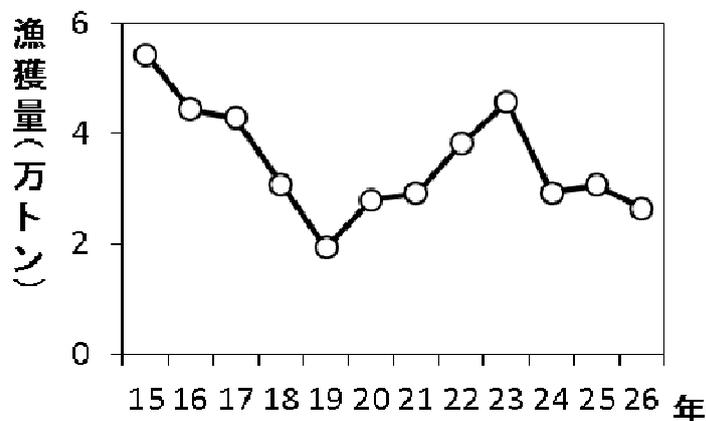


図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）によるマアジ漁獲量の推移

**山陰沖の漁況と今後** 島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は平成 15 年度以降、2～3 万トンで横ばい傾向にありましたが、平成 25 年度以降微増の傾向にあります（図 2）。平成 26 年度下半期は 17,156 トンの漁獲があり、前年同期（12,774 トン）の 134%、

平年同期（13,263 トン）の 129%でした。

今後の漁況は、漁獲の主体となる 1 歳魚（大きさ 15～20 cm : H26 年生まれ）と 2 歳魚（大きさ 20～25 cm : H25 年生まれ）の山陰沖への来遊状況と、夏季以降漁獲対象となる 0 歳魚（大きさ 5～15 cm : H27 年生まれ）の加入状況によって決まります。1・2 歳魚の来遊状況は、山陰沖の海水温の分布状況の影響を大きく受けます。

平成 26 年の状況は、水温は 4 月に平年よりやや低めで推移しましたが、その後は概ね平年並みから高めに推移しました。また、0 歳魚の本格的な加入は平成 25 年同様 6 月頃で、マアジ新規加入量調査\*では平成 17 年から見ると過去最大の加入量指数を示しました（図 3）。高めの水温推移と多量の新規加入の影響を受けたためか、上半期の漁獲量は好調だった前年並み、下半期の漁獲量は前年を上回りました。

今期の山陰沖を含む日本海西部海域の 50m 深水温の推移は、まだ予報が出ていないため予測が難しいですが、平成 26 年度第 2 回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報（H27 年 3 月 25 日発表）では対馬暖流域・沿岸域の水温が平年並み～やや高めと予測されていることから山陰沖もそれに準ずると考えられ、また、今期に 1 歳魚となる平成 26 年生まれの加入状況は、直近までの漁獲状況とマアジ新規加入量調査の結果から前年を上回ると予測されます。これから山陰沖に加入してくる 0 歳魚の状況は今後調査予定ですが、前年並みとすれば、全体の来遊量は前年並みか前年を上回ると予測されます。

※マアジ新規加入量調査：山陰沖へのマアジ 0 歳魚の加入量を早期に把握するための調査です。

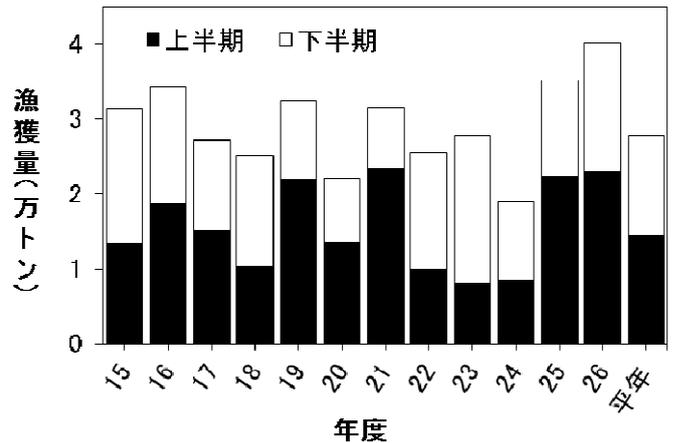


図 2. 島根県中型まき網によるマアジ漁獲量の推移（平年は H20～24 年の平均値）

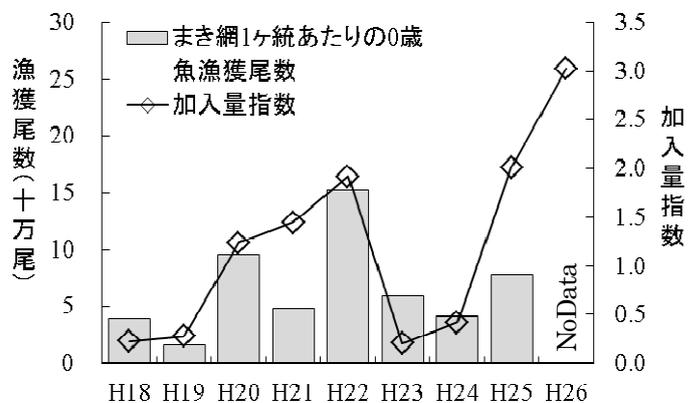


図 3. マアジ新規加入量調査による加入量指数と 6～12 月におけるまき網（境港）1 ヶ統あたりの 0 歳魚の漁獲尾数（H26 年は未集計）

### マサバは前年並みか前年を上回る

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成 19 年から上向き傾向にありましたが、平成 22 年から減少し、平成 26 年の漁獲量は 2 万 2 千トンと不調だった前年並みで平年を大きく下回りました（図 4）。

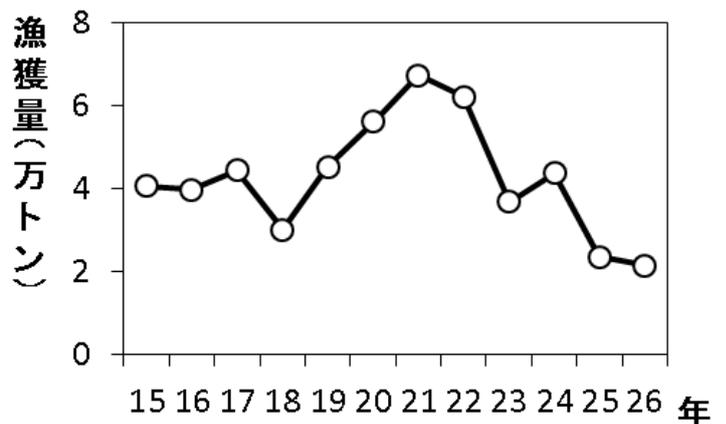


図 4. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）によるマサバ漁獲量の推移

島根県の中型まき網によるサバ類の漁獲量は、主漁期にあたる下半期の経年変化をみると、5千～2万トンの中で増減を繰り返して推移しています（図5）。平成26年度下半期の漁獲量は7,600トンで、前年同期（12,309トン）の62%、平年同期（12,285トン）の62%となり、前年・平年を下回る漁況でした。

4月～9月は盛漁期にはあたらないため、今後漁獲は低調に推移しますが、1歳魚（25～30cm：H26年生まれ）が漁獲の主体となり、夏以降は0歳魚（15～20cm：H27年生まれ）も漁獲されます。

1歳魚の資源水準は、前年を上回るとされています。また、0歳魚の資源水準は予測が困難ですが、親魚量の水準や初期生残に関わる環境要因（海水温が近年低水温傾向であり、前年よりやや低め）からみると前年並みと予想されています。従って、全体の来遊量は前年並みか前年を上回ると考えられます。

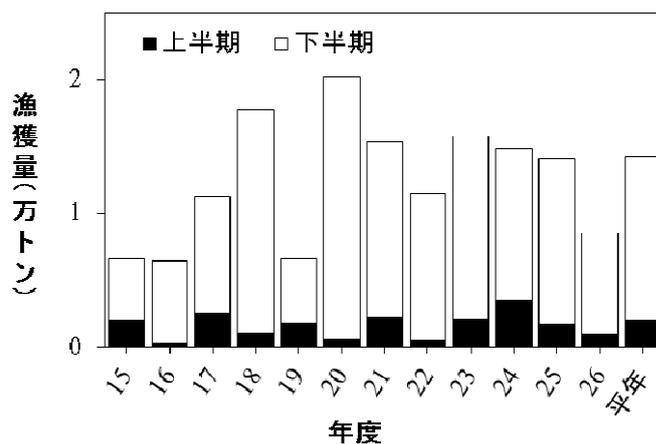


図5. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移（平年はH21～25年の平均値）

### カタクチイワシは前年並みか前年を下回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、数年ごとに増減を繰り返しながら2千～1万5千トンで推移しています（図6）。平成26年度下半期の漁獲量は704トンと、前年同期（4,872トン）の14%、平年同期（4,220トン）の17%でした。

今後の漁況は、漁獲の主体となる0歳魚（大きさ5～10cm：H27年生まれ）と1歳魚以上（大きさ12～14cm：H26年以前生まれ）の来遊量で決まります。平成21年～平成25年までカタクチイワシの資源水準はほぼ横ばいであると推測されています。また、1歳魚は、産卵親魚の漁獲状況から前年並みと判断されます。近年の山陰沖では本種は3～5月にまとまって漁獲される傾向が強く、3月の漁獲は94トンと前年を大きく下回っており、5月以降は近年の傾向通り漁獲量が減少すると考えられるため、結果として全体の来遊量は前年並みか前年を下回ると予測されます。

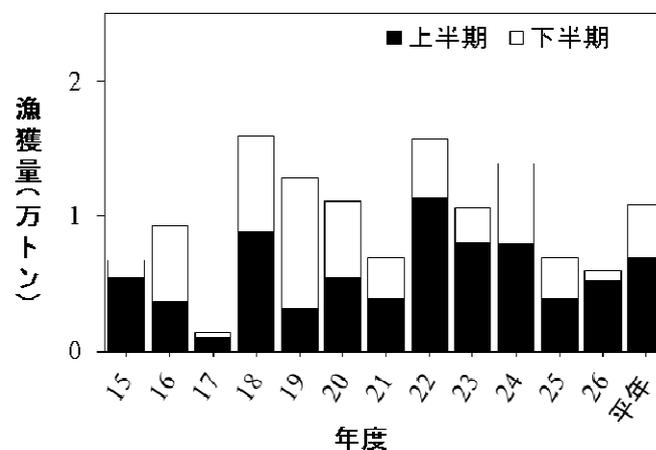


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移（平年はH21～25年の平均値）

## ウルメイワシは前年並みか前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 15 年度以降はやや増加傾向にあり、特に平成 23 年度は 1 万 6 千トンと過去 10 年間で最高の漁獲量を記録しました（図 7）。その後も 1 万トン前後で推移していたのですが、平成 26 年度下半期の漁獲量は 1,240 トンで前年同期（11,062 トン）の 11%、平年同期（7,524 トン）の 16%となり、極めて不調となりました。

今後は、1～2 歳魚（大きさ 18 cm 以上：H26 年～H25 年生まれ）と夏以降の漁獲に加わる 0 歳魚（大きさ 5～15 cm：H27 年生まれ）が漁獲の主体となります。平成 26 年の推定産卵親魚量を計算すると前年並みであるものの、直近までの漁獲状況は不調であることから今期の来遊量は、前年並みか前年を下回ると予測されます。

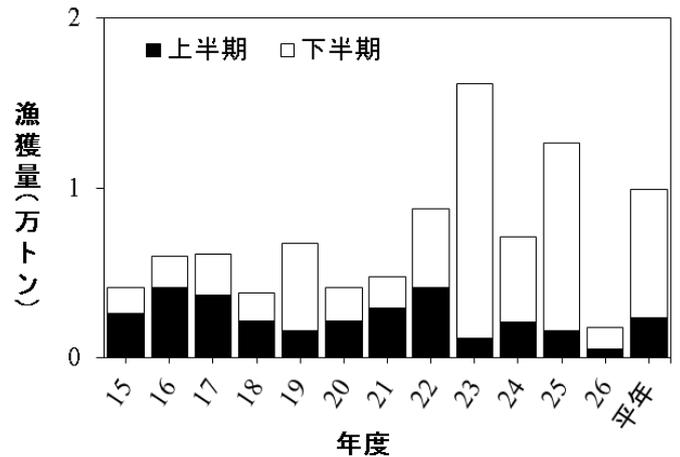


図 7. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移（平年は H21～25 年の平均値）

## マイワシは前年並みか前年を上回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成 15 年以降回復傾向にあり（図 8）、平成 25 年は平成 23 年から引き続いて豊漁となりました。しかし、平成 26 年は殆ど漁獲されず、平成 26 年度下半期の漁獲量は 132 トンと前年同期（13,241 トン）の 1%、平年同期（5,822 トン）の 2%となりました。

今後の漁況は、漁獲の主体となる 1～2 歳魚（大きさ 15～20 cm：H26 年～H25 年生まれ）と夏以降の 0 歳魚（大きさ 15 cm 以下：H27 年生まれ）の来遊量で決まります。昨年はほとんど漁獲されなかったものの、平成 24 年生まれ（2 歳魚）の資源量は前年を上回り、平成 25 年生まれ（1 歳魚）は前年と同程度の資源水準であると考えられています。また、予測が困難な 0 歳魚を前年と同程度と仮定すると、今期の来遊量は前年並みか前年を上回ると考えられます。昨年はほとんど漁獲されませんでしたでしたが、再び少しずつマイワシの漁獲が確認されていることから、今後の動向を注視する必要があります。

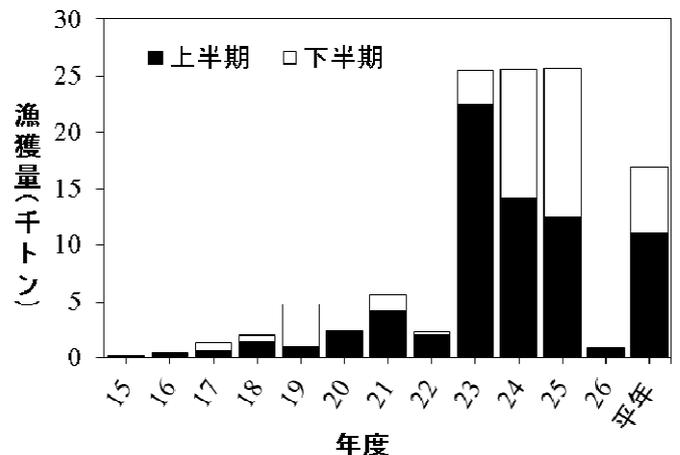


図 8. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移（平年は H21～25 年の平均値）